

会議記録				
会議の名称		決算特別委員会 環境厚生分科会		会議場所 第3委員会室
				担当職員 山末
日時	令和元年9月17日(火曜日)		開議 午後 1時00分	
			閉議 午後 2時06分	
出席委員	◎富谷 ○並河 長澤 大塚 三宅 小松 西口			
事務局	山内事務局長、鈴木議事調査係長、山末主査			
傍聴者	市民 0名	報道関係者 0名	議員1名(浅田)	

## 会議の概要

### 1 開会

### 2 事務事業評価対象事業の論点整理

<富谷委員長>

事務事業評価は、事業の目的や手法、成果、コスト、方向性を視点として評価を行う。実際の評価では、1事業45分の中で、説明約10分・質疑約10分、その後、委員間での議論を経て評価結果を出すということから、時間上の制約もあるため、議論の焦点とすべきことを事前に委員間で整理しておく必要がある。当日、その論点に沿った質疑を行い、適切な評価ができるよう、本日は論点整理を行う。

#### (1) 環境保全対策経費

<富谷委員長>

事務局から資料の説明を。

<事務局主査>

(資料説明)

<三宅委員>

嘱託職員報酬で、警察OBを任用して不法投棄・不法開発等を監視しているとのことだが、具体的な業務内容と業務量が知りたい。

<長澤委員>

資料の公害苦情処理件数について、住民からの苦情件数だと思うが、嘱託職員が監視活動をしているものとは別なのか。また、不法投棄であれば、受理件数が72件で警察等引継件数と検挙又は指導が1件ずつだが、それ以外の部分でここに上がつてこないような助言や指導を行っているのかなど、実際の対応が知りたいと思う。

<小松委員>

不法投棄もそうだが、ポイ捨ても含めて、啓発活動がどれだけ行われているのか知りたい。それによって環境美化条例が市民に知れ渡っているのかということも聞いて聞きたい。

<長澤委員>

嘱託職員による監視活動と不法投棄対策業務委託で行っている不法投棄パトロールとは別立てで実施しているのだと思うが、双方の業務内容やどのように区別・分担しているのか知りたい。

＜西口委員＞

まだまだ不法投棄があるのか、これで十分なのか、必要であれば予算をふやすことも1つだと思う。費用対効果についてを論点としたい。

＜三宅委員＞

実際に業務を行っている人は人手が足りないと感じているのか、それとも十分だと感じているのかを聞きたい。

＜富谷委員長＞

業務量、費用対効果を確認することとしたい。

## （2）生活困窮者自立支援事業経費

＜富谷委員長＞

事務局から資料の説明を。

＜事務局主査＞

(資料説明)

＜大塚委員＞

平成28年9月の事務事業評価で拡充という評価がなされているが、その後、予算が拡充されているのかを確認したい。

＜三宅委員＞

前回の事務事業評価の論点にもあったように、委託内容と業務量は適切なのかを確認したい。

＜富谷委員長＞

前回の事務事業評価では、生活支援相談センターに相談に行く人は社会的に接点のない人がほとんどであり、窓口に行き着くのも難しく、どのように結び付けていくのかが課題として挙がった。その時には、市役所に生活保護の申請を行った人が生活保護を受けられないということになった場合に、生活支援相談センターを紹介してもらえる人としてもらえない人がいるとのことであり、連携を強化されたいという意見があった。現在、その連携が強化されているのかを確認したい。相談件数が少ない現状であり、もっとアクションを起こしていくかなければならないのではないかと思う。また、民生委員・児童委員は、地元の引きこもりの人や困窮者の状況をよく知っていると思うが、生活支援相談センターとの連携が密に行えているのかも確認したいと思っている。一体的に事業を行っていかなければ機能しないと思う。出口である就労支援や中間就労等がどれだけ拡充されたのかも確認したい。

＜三宅委員＞

相談者数やプラン作成数はふえていっているのかを知りたい。

＜長澤委員＞

事務事業評価資料では、新規相談が99件でプラン作成数が22件、就労支援が6件だが、残りはどのような状況になっているのかを確認できればと思う。

＜富谷委員長＞

相談内容によって他の機関につないでいるのだと思う。また、任意事業と必須事業があり、任意事業では学習支援として地域未来塾を実施されているのだが、今後の方向性も確認したい。全て一体的に取り組んでこそ効果が上がってくるのではないかと思う。

＜小松委員＞

平成28年の事務事業評価の論点に、「市役所との連携及び人材確保の状況は。」と

あるが、福祉や住宅、教育等も含めて各部局で連携していかなければならないと思う。どのように連携をしてきたのかを確認すべきだと思う。

＜富谷委員長＞

事務事業評価に選定するのは2回目なので、前回からどのように拡充・改善してきたのかということや、今後の展望を確認していきたい。

### （3）包括的支援事業経費

＜富谷委員長＞

事務局から資料の説明を。

＜事務局主査＞

（資料説明）

＜大塚委員＞

生活支援体制整備事業の具体的な取り組みを聞きたい。地域包括支援センターについては、新たに予算をつけて人件費にかける割合がふえればよいと思っているが、それは難しいと聞いているので、現状のままでも仕方がないと思う。

＜三宅委員＞

この事業は実績を数値化できるものなのか。

＜大塚委員＞

それぞれの地域包括支援センターから実績報告が出ている。

＜小松委員＞

全国的に見て本市の処遇はこれぐらいなのか。報酬を上げてもらわないと困るというような状況なのか。忙しいとは聞いているので、この事業がこの予算でよいのかを確認したい。

＜大塚委員＞

各地方の包括支援センターの給与体系は全て出ている。亀岡市はそこから比較してもそれほど低くはなく、同じぐらいの数字である。

＜富谷委員長＞

認知症総合支援事業経費の認知症カフェについて、昨年度は48回開催されていたが、参加者が少ない状況であり、費用対効果が悪く、工夫すべき事業だと思う。1つ1つの事業を見ていくと費用対効果が悪い事業があるのではないかと思う。そういうことについても聞きたい。

＜長澤委員＞

地域包括支援センター業務の事業費の多くはセンターに対する委託料だと思う。担当課は、各センターから実績報告を受け、会計面のチェックと同時に事業実績の面でも評価を行い、課題も感じているのではないかと思う。そういうところを知りたい。

＜大塚委員＞

相談業務と介護予防のレセプトの作成業務と大きく2つの業務があり、相談業務の中にはいろいろな相談の内容があるので、とても忙しいと思う。また、認知症カフェの委託料はそれほど高くはないと思う。

＜富谷委員長＞

論点をどうするか。

＜大塚委員＞

資料にもあるように、専門職員の継続した人材確保を図るためにどうすればよい

かを論点としてはどうか。

<長澤委員>

相談者数に対して人員が手いっぱいなのかということや、相談に対して質のよい支援ができているのかを論点としてもよいと思う。しかし、それをどう見るのかというところだが、先ほども言ったように毎年度の実績報告等に対して亀岡市が文書で講評や評価をしているような記録は残っていないのか。

<西口委員>

現在はそういうものはないのではないかと思うが、今後、講評していくことも大事なのかもしれない。

<三宅委員>

連携がうまくいっていないかったことや、人数が足りていなかったことがわからなければ判断ができないのではないかと思う。

<富谷委員長>

人件費に対して業務量が多いことを論点とするとしても、何か見えるようなものがなければならないと思う。

<三宅委員>

相談者数がふえているのかどうかや、内容が難しくなっているのかどうかがわからなければ評価ができないと思う。

<西口委員>

必要な部分については市として講評していくことを要請していくべきではないかと思う。

<富谷委員長>

市が各センターの評価を公表してほしいということか。

<西口委員>

行政がそれぞれのセンターから報告を受け、それに対して講評するようなことを行ってはどうかということである。

<三宅委員>

各センター長からの生の声を集めるだけでも見えてくるものがあると思う。

<富谷委員長>

論点はどうするか。各センターの課題等を市が講評してほしいということか。

<議事調査係長>

各センターからの年度内の業務報告をまとめた書類があるのかどうかは把握していないが、資料があれば担当課と調整していく。当事業に係る経費の大半が地域包括支援センター業務に対する委託料であるため、この内容を見ていくことがこの事業の内容を見ていくことにつながると考える。そのため、各センターの課題を把握しているのかを論点としていただき、個別に質疑を行いながら詳細を審査いただければと考える。その上で、適正な委託料となっているのかを審査いただいてはどうかと考える。

<富谷委員長>

それでは、各センターの課題を把握しているのかを論点とし、個別に質疑を行っていくような形としてよいか。

<了>

### 3 その他

<事務局主査>

決算カードを配付している。決算審査の参考にされたい。

散会 ~14:06